

補助金等支出明細書

1. 補助金等の名称	平成20年度渡り集結地衝突影響分析業務		
2. 事業の目的及び内容	<p>(1) 目的</p> <p>平成17年4月に決定された「京都議定書目標達成計画」において、エネルギー供給面の二酸化炭素削減の柱のひとつとして新エネルギー対策が位置づけられ、そのうち、風力発電については、平成22年までの国の導入目標が300万kW相当と定められた。しかし、平成17年度末の総設備容量は約150万kWであり、より一層の導入が求められる現状にある。</p> <p>導入の必要性の一方で、風力発電施設の設置によって猛禽類をはじめとした鳥類が風車のブレードに衝突して死亡する事故(バードストライク)が相次いで発生しており、その回避が大きな課題となっている。この課題に円滑に対応するためのデータ等の整備がされていないため、風力発電施設設置の適否判断が長引く問題が生じている。</p> <p>風力発電施設においてバードストライクが発生するその根本的な原因の一つとして、施設の立地が鳥類の渡り移動経路上または集結地近傍に位置している可能性が挙げられる。そのため、バードストライクの発生を減少させる対策として、そのような経路あるいは地域を事前に把握し、施設の設置地域を選定・検討することが極めて有効になると考えられる。</p> <p>そこで本業務では、全国における渡り集結地からの情報を収集し、集結地や、集結地間の渡り経路を可能な限り詳細に把握することを目的とする。風力発電施設の新設に際してはバードストライク問題に適切な配慮を行うための情報を整備し、風力発電の推進と野生生物保護との両立を目指すものである。</p> <p>(2) 具体的な内容</p> <p>風力発電施設においてバードストライクの発生が懸念されるワシタカ類、ガンカモ類、九州のツル類、小鳥類について、19年度に引続き、全国の渡り集結地や集結地間の渡り経路に関する情報収集・現地調査を行った。また、北海道のオジロワシ・オオワンについて、渡り経路及び繁殖・越冬状況の情報を収集整理するとともに現地調査を行った。</p>		
3. 交付先の公益法人の名称	財団法人 日本鳥類保護連盟		
4. 交付実績額			29,968 千円(A)
(1) 人件費			10,408 千円
(2) 一般管理費			3,666 千円
(3) その他の管理費			
	内 容	金 額	
		千円	
	合 計	千円	
6. 外部への支出			
(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出			
	支 出 内 容	支 出 先	金 額
			千円
	合 計		千円(B)
(2) (1)以外の支出			
	支 出 内 容	支 出 先	金 額
	旅費	職員・調査研究員	3,019 千円
	諸謝金	調査研究員	1,635 千円
	賃金	現地調査員	7,816 千円
	雑役務費	レーダー操作員	300 千円
	借料損料 (レンタカー)	レンタカー会社	1,040 千円
	通信運搬費 (レーダー送料)	運送業者	10 千円
	消耗品費 (作図用ソフトウェア等)	量販店等	347 千円
	印刷製本費	印刷業者	300 千円
	合 計		14,467 千円
7. その他			
	内 容	金 額	
	消費税及び地方消費税	1,427 千円	
	合 計	1,427 千円	
8. 再補助・再委託等の割合			0 %(B/A)